



RENKEI 第21号

2022.7

発行元

松江市在宅医療・介護連携支援センター

TEL: (0852) 61-3741 FAX: (0852) 21-5377

メールアドレス: renkei@shakyou-matsue.jp

住所: 〒690-0852 島根県松江市千鳥町70番地 松江市総合福祉センター1階 社会福祉法人松江市社会福祉協議会

ホームページもご活用下さい >>> [松江市在宅医療介護](#) [検索](#)

診療報酬改定に関する研修を行いました!

5月31日 松江市在宅医療・介護連携支援センター公開講座を開催しました(オンライン)。 錦海リハビリテーション病院院長 角田先生を講師にお迎えし、「こんなところが変わった!これからの病院機能」をテーマに医療機関の入退院に関する項目など介護との連携に大きくかかわる部分についてお話をいただきました。

在宅における医療・介護連携のためには、地域の医療介護従事者も病院などの医療体制の変化について、しっかりと理解しておく必要があります。この研修はその一助となればと思ひ企画したものです。

講演の中で、医療側は機能に特化した体制を整えなければ、病院の存続も困難になること、そして介護側がそういった医療の状況をしっかりと理解し病院と連携していくことの必要性や、自分たちが置かれている環境をしっかりと理解し、国の政策との整合性を考え、自分たちを変えていくことの重要性を、とても分かりやすく説明をして頂き、地域の医療・介護を担う参加者にとって、自分たちの役目や支援を改めて考える機会になり、貴重な学びの場となりました。

当日は診療所や病院の先生、介護支援専門員の方をはじめ、その他多くの地域医療・介護に携わる関係者のみなさま56名にご参加いただき大盛況でした。ご参加いただいたみなさまありがとうございました。

松江市在宅医療・介護連携支援センター公開講座
こんなところが変わった!これからの病院機能
 ~2022年診療報酬改定と地域への影響~

2022年4月に診療報酬改定があり、病院と地域医療・介護の連携がますます重要になってきます。今後の医療と介護の連携に向けて、地域の医療介護に携わっておられる方々に知っておいていただきたい病院機能に関する診療報酬改定の内容やポイントについて、公開講座を企画しました。

日時 : 令和4年5月31日(火) 18:00~19:00
参加費 : 無料
場所 : オンライン (Zoom: 定員100人)
講師 : 社会福祉法人こうほうえん 錦海リハビリテーション病院
 病院長 角田 賢 先生

お問い合わせ 松江市在宅医療・介護連携支援センター
 〒690-0852 松江市千鳥町70 電話 (0852) 61-3741

入退院連携はどうなる?
 病床の機能はどう変わる?

頂いたご感想一部紹介

- ・ 医療側は介護のことを介護側は医療のことを知っておく必要がある
- ・ 医療を知ることで、介護についての介護報酬の部分などの知識が深まった
- ・ 診療報酬改定のポイントと関係機関の役割について自分の立ち位置でできることについて理解できた
- ・ 地域包括ケア病棟と回復期リハビリテーション病棟の役割について学ぶことができた
- ・ 地域連携の大切さ、病院経営の大変さを知ることが出来た
- ・ 病床が機能分化していく現状や、診療報酬の改定による急性期病院の変化を理解することが出来た
- ・ 回復期病棟で重症例を改善し在宅に戻す技術的工夫を考えなくてはいけないことが分かった
- ・ 最新の情報を知ることが出来た。病院の機能や国の動向など全体を知ることが出来た

身寄りのない人への支援ガイドラインが完成しました

松江市においても、年々家族や親族がいない、家族の支援が受けられないために施設入所や入院時等に困っているという相談が増加しており、担当のケアマネジャーや様々な機関の相談員が対応に苦慮しています。

身寄りのない人が、たとえ判断能力が不十分になっても、最後まで自分らしい安心した暮らしが送れるよう、また、関係機関がチームをつくり役割分担をして支援を進めていけるよう「松江市身寄りがない人への支援ガイドライン」を作成しました。松江市社会福祉協議会が事務局となり、市内の病院、施設、大学、弁護士、開業医、ケアマネ協会、行政関係者に策定委員になっていただきました。

本ガイドラインでは、「ひとりひとりの備え」「支援者役割分担シートの活用」、「体制づくり」を合わせた「3本の矢」を進めることが、身寄りのない方の自分らしい暮らしを最期まで支えていくための基盤としております。

身寄りがない方の支援が円滑にすすみ、住み慣れた松江市で安心して最後まで生活ができるよう本ガイドラインをご活用いただければと思います。



身寄りがない人への支援に関する様式は、
[松江市社会福祉協議会ホームページ](#)
>高齢者に関すること>地域包括支援センター
>各様式ダウンロード
からご確認いただけます。

わたしの思いをつなぐノート(終活支援ノート)出前講座

2022年4月の市報松江にて終活支援ノートと終活支援ノート出前講座の紹介がありました。

その影響もあり、なごやか寄り合い事業や高齢者の方の健康講座などに呼んでいただく機会が増えています。

6月は、玉造地区の集まりにお招きいただき、松江市社会福祉協議会地域福祉課の湖南地区担当のコミュニティーソーシャルワーカーと一緒に過ごして、松江市の在宅医療や終活支援ノートについての説明を行いました。

終活支援ノートは、本人の大切にしていることや望み、どのような医療やケアを望むかなどについて記載していくノートです。ノートを利用することで、自分のこれまでとこれからを見つめなおし、人生を自分らしいより良いものにしていただければと考えています。



4月 川津なごやか



6月 玉湯ミニデイ

消防との情報共有会

松江市の救急医療情報活用事業は、自宅で具合が悪くなり、救急車を呼ぶなど「もしも…」のときの安全と安心を守る取り組みです。同意・了承事項をご確認いただいたうえで、申請書を記入し、松江市介護保険課に申請いただきます。申請書の内容を消防署と共有するので、消防指令センターのシステムに位置情報が登録され、緊急出動時に救急車内で救急医療情報があることや利用者の位置情報が確認できるようになり、的確な現場活動を実現します。

今年度もひきつづき、松江市消防と救急時の取り組みについて、情報共有会を行います。

特に、昨年度9月発行の「RENKEI18号」で紹介しました「救急医療情報活用事業」の周知については、今年度も引き続き、積極的に住民のみなさんや医療介護の関係機関に呼びかけていきます。



「救急医療情報活用事業」の詳細は、[松江市ホームページ](#) > 救急医療情報事業で検索してください。

第一回病病連携会議 テーマは「包括との連携」

松江市内10病院の地域連携に係る職員の集まり、「松江市病病連携推進会議」定例会を行いました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、リモート会議としました。

年度初めに、現場での状況把握を目的に、松江市内10病院（一般病院7か所、精神科病院3か所）を回りました。その際、病院と地域包括支援センターとの関わりが多くあることがわかりましたので、その役割確認とお互いのコミュニケーションの場を持つことにしました。

まず、地域包括支援センターから、病院からの質問を中心に、「地域包括支援センターの役割」というテーマで、プレゼンテーションがあり、その後、病院と各地域包括支援センターとのグループワークを行いました。グループワークは、「わからないこと」「疑問に思っていること」「知らせたいこと」などを中心に意見交換をし、活発な話し合いとなりました。

終了後、参加者から「やっぱり顔の見える連携はいいですね」「包括の方の活動内容をお聞きし、これからより身近に相談や連携をさせていただきたいと思いました」などの感想をもらい、主催者としては、有益な時間になったとうれしく思っています。



医介センターでは、医療介護の関係者の方からの相談をお受けしています！是非お気軽にご利用ください。



こんな相談をいただいています

相談	対応・結果
他県在住で、在宅で呼吸器利用の要介護状態の方が松江市に引っ越し予定。まず松江市で病院に入院し、その後在宅への移行を考えているので入院先を紹介して欲しい。	松江市内の病院に連絡し入院受け入れ可能な病院を見つけ、相談者に情報提供した。
地域の公民館からの相談。医療従事者を招いた研修を企画しているが、どのような方法で講師を探したらよいか。	松江市内の病院が行う出前講座の一覧（医介センター調査）をお渡し説明した。



Information ~活用しよう！いろいろな情報~

当センター ホームページからの情報紹介

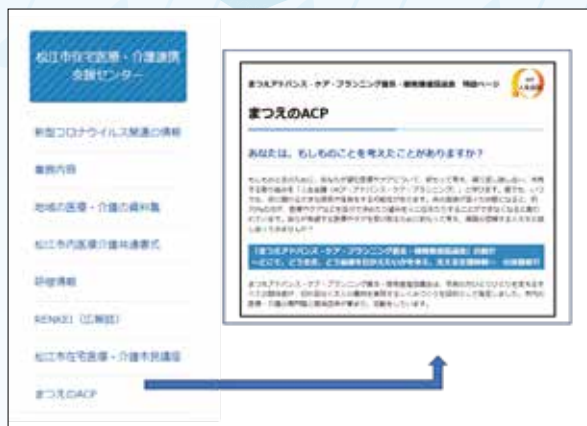
☆まつえのACP ホームページに 特設ページを掲載しました。

あなたは、もしものことを考えたことがありますか？「まつえアドバンス・ケア・プランニング普及・啓発推進協議会」の紹介と、どこで、どう生き、どう最期を迎えたいかを考え、支える支援体制の活動紹介です。

このページには、「活動紹介」「出前講座」「わたしの思いをつなぐノート(終活支援ノート)」「参考資料・サイト」を紹介しています。一度覗いてみてください。

今後の活動紹介や情報をさらに載せていきます。

松江市在宅医療・介護連携支援センター>まつえのACP をクリック



☆松江圏域訪問看護ステーション一覧表 改定しました！

当センターホームページに掲載しております「松江圏域訪問看護ステーション一覧表」を今年度も改訂いたしました。所在地・対応できる看護・ケア・リハ職配置に加え、今年度からリソースナース*の配置も組み込みました。訪問看護ステーション各々のアピールポイントなども参考に訪問看護ステーションの選択にお役立てください。

*リソースナースとは…ある特定の看護分野において必要な教育課程や研修をとおして、熟練した看護技術と知識を修得し、看護協会、機構、団体などの組織が認定する資格を持った看護師

【アクセス方法】

松江市在宅医療・介護連携性ンセンター>地域の医療・介護の資料集
>在宅医療・介護連携支援センター作成 訪問看護ステーション 一覧表

☆成年後見制度啓発用ミニドラマのDVDが完成しました！

このたび松江市権利擁護推進センターが、成年後見制度の啓発用DVDを作成しました。

このDVDには、認知症になった主人公が成年後見制度を活用し、住み慣れた地域で最期まで安心して暮らす様子を描いた約20分間のミニドラマが収録されています。ドラマでは、主人公を見守り支える地域住民や市民後見人、さまざまな専門職との交流の様子も描かれています。このDVDは、成年後見制度についてわかりやすく伝えるためのツールとしてだけでなく、医療介護関係者のみなさまに、身近な権利擁護支援のあり方について考えていただくきっかけとしても、ご活用いただけるのではないかと考えております。

ドラマのキャストिंगにあたっては、配役と同様のお仕事に携わっておられる方々や権利擁護支援を担っておられる地域の方々にご協力いただきました。完成したDVDは、地域の出前講座等に教材として活用するほか、医療介護関係者のみなさまへの貸出しも行いますので、日ごろの支援にどうぞご活用ください。



【お問合せ先】

松江市権利擁護推進センター(松江市社会福祉協議会内)

TEL:27-8389 Email:mamoru@shakyou-matsue.jp



松江市権利擁護推進センター
マスコットキャラクター
まもるくん